

海とにんげん & SOS

2024. 6. 30 Vol.45



ドロメ



メガネカラッパ



大吉半島での生きもの観察の様子



アオウミウシ



ムラサキウニ



マクサ



アメフラシのタマゴ



ミミイカ



イトマキヒトデ



イトマキヒトデ(変異種)



コシマガリエビ



オサガニ



ゴンズイ

写真展「大吉半島の生きものたち」開催

鳥羽市立海の博物館では7月6日から写真展「大吉半島の生きものたち」を開催します。

海の博物館から歩いていける大吉(おぎつ)半島は、「砂浜」、潮がひくと広い砂地があらわれる「干潟」、大小の石が転がっている「転石の浜」、ごつごつとした岩が続く「磯」の自然海岸が連なり、それぞれの海辺にはアマモやホンダワラ類などが繁茂する藻場(もば)が広がっています。

砂浜で見られる生きものは「コメツキガニ」、「マメコブシガニ」、「タマシキゴカイの卵」などで、春先には「ミズクラゲ」や「アカクラゲ」が打ちあがっています。

大潮の干潮時には、砂浜の水辺にコアマモやアマモを見ることができ、干潟の砂の上では「アラムシロガイ」、「ウミニナ」、「ヘナタリ」、「ツメタガイ」、「モミジガイ」(ヒトデの仲間)などの生きものが見つかります。

そして、一見、何も生きものはいないのかな?と思う海辺ですが、「転石の浜」の石をめくるとその下に「イソガニ」、「ヒライソガニ」、「ヤドカリの仲間」が隠れており、また運がよいと「ミミズハゼ」などの魚が見つかることもあります。

さらに広い磯には、潮がひくと生きものいっぱい「タイドプール」があらわれ、また岩の表面には小さな巻貝や「カメノテ」や「カサガイ」、「ヒザラガイ」、「フジツボ」の仲間、また岩の下やタイドプールを覗くと「ウニ」や「ヒトデ」の仲間、「ミズヒキゴカイ」などを見つけることができます。

磯の広がる海に腰まで入ればウミウシ類が見つかり、コアマモやアマモが生えている「アマモ場」に網を入れればさまざまな魚の稚魚や幼魚、また緑色をしたエビ類などが捕まれます。

会場では、大吉半島の海辺の環境やそこで暮らす生きものを写真で紹介しています。鳥羽の海の環境や生きものたちを知ってもらうことで、海を大切にすることを育んでもらえればうれしいです。

写真展は9月30日まで鳥羽市立海の博物館のフォトギャラリーで開催しています。

(平賀)